（２０１７年３月）

ハイチ共和国・政治・経済・社会情勢月報

＜ポイント＞
【政治】
●プレヴァル（Rene Garcia PREVAL）元大統領は，７４歳で逝去（３日）
●ラフォンタン（Jack Guy LAFONTANT）氏は上下両院による承認を得て，首相に任命（２１日）
●閣僚就任式にて１８省庁における大臣（内訳：１３名男性，５名女性）を任命（２１日）
●バチェレ（Michelle BACHELET）チリ大統領，ハイチを訪問（２７日）
●ラフォンタン首相，ハイチ軍再編本格化に向けた行程表を国防大臣に手交（２９日）

【経済】
●２月インフレ率，前年同月比＋１３．９％
●デュボワ（Jean Baden DUBOIS）ハイチ銀行（ＢＲＨ）総裁は，グルドの下落等に言及（９日）
●韓国繊維系企業ＳＡＥ-Ａ社は，学校の落成式を開催（２４日）

【社会・文化・その他】
●違法な斡旋業者を介し，メキシコ国境のハイチ人による不法入国と犯罪が増加（２日）
●ブーロス（Reginald BOULOS）氏はマルテリー（Michel Martelly）元大統領を批判（１０日）
●アリスティド元大統領は，何者かよって銃撃されたものの，同元大統領は無傷（２０日）

１　政治（内政・外交・国葬）

（１）プレヴァル元大統領逝去

●　３日　プレヴァル元大統領は脳血管発作により，７４歳で逝去。同大統領は，１９８６年のデュヴァリエ（Jean-Claude DUVALIER）政権崩壊以降，唯一二期大統領を務めたことで知られ，モイーズ現大統領は同元大統領の逝去に対し，追悼の意を示した。

●１０日　同元大統領の国民向けの告別式を実施。

●１１日　同元大統領の国葬を実施。全体をとおして混乱もなく平和裏に実施され，各方面から，元大統領の農業や開発に向けた努力，対話等への貢献を称えられた。

（２）首相の任命（上下両院における承認）

●１３日　午前１１時，上院におけるラフォンタン氏による所信表明演説が延期。

●１５日　午後９時，再び上院が召集され，同氏は所信表明演説を行い，翌日６時過ぎまで議論と質問を繰り返した後，投票を行った結果，承認に際して２８票中１６票が必要である中，２０票（反対０票，棄権７票ほか）を獲得し，上院における承認を得た。

●２０日　午後６時過ぎ，下院議会におけるラフォンタン氏による所信表明演説が延期。下院議員は同氏と議論を行うほか，過熱した議員同士が押しあう等，翌日午前８時過ぎまで調整が続いた。

●２１日　午前９時過ぎ，所信表明演説に対する投票結果が読み上げられ，６０票が必要なところ，賛成９５票，反対６票，棄権２票で下院議会における承認を得て，首相として正式に任命。

（３）所信表明演説と行程表（国防省）の手交

●２９日　モイーズ大統領及びラフォンタン首相は，各省庁の大臣を大統領府に招集し，所信表明演説をより詳細に示した行程表を手渡した。

●　同日　ラフォンタン首相はエルヴェ・ドゥニ（Herve DENIS）国防大臣に対してハイチ軍再編本格化に向けた行程表を託し，ハイチ軍（ＦＡD'H）の再編と機能に係る法律を策定し，議会による承認を得る等の取り組みと同時に，国防省の予算拡大，施設部隊や軍大学病院新設を要請。

（５）大統領府の人事

●２１日　ラフォンタン首相及び内閣閣僚就任式が実施され，１８省庁における大臣（内訳：男性１３名，女性５名）を任命。

●２４日　大統領令により，顧問１１名，報道官２名，各省事務次官等１０名を任命。

●２７日　大統領令により，首相府事務局長１名，閣外大臣４名，事務次官２０名（注：全３０名のうち，女性は５名（１７％)），９名の県知事を任命

（６）バチェレ大統領によるハイチ訪問

●２７日　バチェレ大統領は教育に係る二国間協定に署名するほか，チリ関連の学校及び駐留チリ軍を訪問するほか，サンドラ・オノレ（Sandra HONORE）国連事務総長特別代表兼ＭＩＮＵＳＴＡＨ代表と会談し，チリ軍の撤退時期は４月１５日になると見込んでいる旨伝達。

（７）米州機構の常任理事会

●２８日　米州機構（ＯＡＳ）の常任理事会が開催され，アルマグロ（Luis ALMAGRO）米州機構事務総長は現下のベネズエラ情勢を議論するため，同理事会の開催を指示したことに対し，ジャン-バティスト大使は職務特権を超えた同憲章の軽視として激しく非難し，民主主義を促進・保護は干渉・制裁ではなく，対話と妥協の模索が必要だと訴え，同理事会においてハイチはベネズエラを擁護した。

２　経済（通貨・韓国企業）

（１）グルドの（貨幣価値の）下落とその弊害

●　９日　ジャン・バーデン・デュボワＢＲＨ総裁は，グルドの下落の加速を抑えた経緯と金融措置，グルド維持の公共政策とハイチ経済における生産の脆弱性について指摘し，商業・産業省（ＭＣＩ），経済・財務省国税総局（ＤＧＩ），検察が，企業に対して法令や規則を遵守させ，米ドルではなく，グルドの信頼を回復する必要があると述べた。

●１３日　経済・財務省のアンドレ（Jean Dorat ANDRE）副所長は，ハイチの負債額が国内総生産（ＧＤＰ）の３９％である約２０００億グルドになると指摘。また，対外債務の８０％を占めるベネズエラ（１７億米ドル）に対し，グルドの下落が進むにつれて，月額およそ８００万米ドルの負債が増加していると言及。

（２）韓国繊維系企業ＳＡＥ-Ａ社による学校の落成式

●２４日　韓国繊維系企業ＳＡＥ-Ａ社等は，ハイチ北東県カラコル市において，第二校目となるＳ＆Ｈ学校を開設。就学前児童と初等・中等教育の児童が，切れ目なく無償で高等教育を受けられる。

３　社会・文化・その他（移民・批判・暗殺未遂）

（１）メキシコ国境沿いのハイチ移民

●　２日　メキシコ国立自治大学のエステベス（Ariadna ESTEVEZ）研究員は，２０１６年５月以降，違法な斡旋業者を介し，メキシコ国境から米国へ入国を試みるハイチ人による不法入国と犯罪が増加していると指摘。米国税関・国境警備局は，サンディエゴ国境の事務所で「通関不可」となったハイチ人が２０１５年３３３人，２０１６年６，３７７人，本年は既に７，５８９人と述べた。

（２）実業家による元大統領批判

●１０日　ハイチの実業界・政界に通ずるブーロス氏はマルテリー元大統領宛の公開書簡を掲載。同元大統領に対し，レカイ市におけるカーニバルでのマルテリー元大統領の言動について，大統領なる者の言動，振る舞いに反しているとして，ブーロス氏が民意を代表して苦言を述べた。

（３）アリスティド元大統領の暗殺未遂事件

●２０日　午後２時，アリスティド元大統領はナゼール（Jean Anthony NAZAIRE）元警察庁長官のマネーロンダリング関与疑惑に対する証人として司法宮に召喚され，モラン（Jean Wilner MORIN）裁判官からヒアリングを受けた後，２車両の警護車と共に帰路に着いたものの，ポルトープランス中心のラリュ（Lalue）周辺で何者かによって銃撃を受け，銃弾は同元大統領の車両に命中し，ボディーガードが負傷したものの，同元大統領は無傷であった。同犯人は依然逃亡している。